

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・タスポ導入に伴い、来客数が増加しており、売上の増加につながっている。一緒に飲料水等を購入する客も多く、売上の上乗せになっている。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・タスポの導入により、店内でのたばこ購入者が増加したため、来客数が前年から10%程度増加している。
	やや良く なっている	スーパー（店 長）	販売量の動き	・先月に引き続き、ポイントカードによる販促が奏功しており、販売点数が増加傾向にある。
		スーパー（店 員）	販売量の動き	・5月に入ってもポイントカードの入会が多くみられ、それに伴って販売量も増えている。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・タスポ導入の影響で、店頭でのたばこ購入客が増えており、来客数が増加している。この動きと連動してたばこ以外の商品も売れてきている。
		乗用車販売店 （営業担当）	お客様の様子	・イベント時の来客数が、前年と比べて10%増加している。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・観光シーズンの閑散期であり、3か月前に比べると利用者は30%程度減少したものの、天候に恵まれたことから、前年に比べると5%ほどの増加となった。
		その他レジャー 施設（職員）	お客様の様子	・試合開催日に当施設が使いにくい状況となるため、試合開催日の利用者が減っているものの、それ以外の日の利用者は増えており、全体的には前年と同程度かそれ以上の利用がみられる。今春に店舗看板を整備したことにより認知度が高まっており、新規客が増えるなど、徐々に活気が戻ってきている。
		設計事務所（職 員）	それ以外	・新年度を迎え、公共工事では新規工事が発注され始めている。民間も気候の回復と共に工事が本格化している。いずれも例年と比べると量は少ないが、時期的に建設業界の景気はやや上向いている。
	変わらない	百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・節約志向の高まりからか、客のなかで着回しの意識が強くなっている。新規にコーディネートして買うというよりは、手持ちのアイテムとうまく合う商品を選んで買っているため、なかなか複数点数の販売に結びつかない。結果的に客単価を引き上げるのが難しい状況である。
		スーパー（役 員）	販売量の動き	・既存店ベースでの売上は順調に推移しているが、客1人当たりの買上点数が前年比99%台とやや減少している。一方、客単価は商品価格が2.5%ほど値上がりしていることから、やや上昇している。過去数か月と同様に、売上増加は来客数増加によるものとなっている。
		家電量販店（店 長）	来客数の動き	・買回り客が減少している。
		家電量販店（店 員）	お客様の様子	・売上は前年実績を上回ったものの、来客数が落ち込んだ。ガソリン値上げの影響で、客が出控えているようだ。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・ガソリンの高騰が先行き不安を呼んでおり、客の購入意欲を低下させている。
その他専門店 【医薬品】（経 営者）		お客様の様子	・ダイレクトメールに対して、顧客からの反応が少ない。健康は二の次なのか、よほどの好条件でなければ集客につながらない。	
観光型ホテル （経営者）		単価の動き	・道外からの団体ツアー客の入込が良くない。ただ、その落ち込みを企業、団体等の法人客や個人客の増加、宿泊単価の上昇でカバーできている。また、付帯収入においても客単価が伸びている。	
旅行代理店（従 業員）		単価の動き	・海外旅行は好調であったが、国内宿泊客はネット予約が主流となりつつあり、依然として低迷している。パック旅行は関東圏のリゾート施設や沖縄が伸びたが、単価が上がってこない。	
タクシー運転手		お客様の様子	・ガソリンの暫定税率復活で生活に対する危機感が一層高まっているなかで、節約できるものは徹底的に節約する傾向が一層強まっている。車内での客との会話においてガソリン価格の高騰がよく話題にのぼる。	

やや悪く なっている	タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間中は、観光客による利用などで少しは良かったが、ゴールデンウィーク以降は、地元客はタクシーに乗らず、夜の繁華街も飲みに出る人が少なく、厳しい状況が続いている。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・モデルハウスへの来場者が少なく、成約数も大変少ない。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・桜の開花が道央と同時期になったことから、道央圏ではゴールデンウィークの花見を地元で行う傾向がみられたほか、ガソリンの値上げもあり、遠距離からの観光客が減少した。ゴールデンウィークの地元飲食店の売上は前年の80%という状態であり、月間を通して80%前後の見込みとなっている。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・食品等の値上げに加えて、高齢者の医療制度における年金からの保険料徴収が始まったことにより、平日来客者の主体である中高年者の消費意欲が大きく低下している。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・5月中旬以降、天候が不順なことの影響もあるが、最近の原油高、身の回りの物価の上昇、年金に対する不安等から、客の消費意欲が鈍くなってきている。また、来客数も減少している。
	商店街(代表者)	競争相手の様子	・気温の不安定さと様々な商品の値上げ等が影響している。周りの店からも良い話は一切聞かれず、閉店する店もかなり出てきている。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の買物の様子をみると、非常に細かく、かつ少量での買物の仕方になっている。
	百貨店(売場主任)	単価の動き	・来客数が伸びないなか、購入単価が低下している。
	スーパー(役員)	販売量の動き	・客の買上点数の減少がかなり目立つようになってきた。
	衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・ゴールデンウィーク前までは良かったが、5月に入ってからガソリンが値上がりするとともに、買上点数が極端に落ちている。1点買いする客が増えており、買上率は前月の8割程度となっている。
	家電量販店(経営者)	来客数の動き	・景気の不透明感からか、客の買い控え傾向が強い。
	家電量販店(地区統括部長)	販売量の動き	・前月に引き続き、薄型テレビの販売量が前年を大きく下回っている。一方で、気温の高い日が続いたせいかエアコンの需要が2けた増加と伸びている。ただ、薄型テレビの落ち込みをカバーするには至っていない。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・道北の自動車市場は一向に回復傾向がみられない。特に5月は買い換えの話が少なく、なかでも商用系車種は前年の50%程度の販売量しかなかった。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・石油製品の高騰により、節約志向が強まっている。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は受け入れ態勢を万全としたこともあり、前年実績を上回るなど善戦したが、中旬以降は前年実績を下回っており、5月全体としては前年実績を9%下回った。ランチは前年実績を2%上回るなど健闘したものの、フレンチレストランのディナーが相変わらず厳しい状況にある。
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・例年に比べて、今年のゴールデンウィーク後は、外食気分が乗らないようである。景気低迷や消費動向が悪いなか、週末のテレビ番組でオリンピック予選や地元球団の交流戦などのスポーツ番組が高視聴率だったことも、来客数減少の理由の1つに挙げられる。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊の予約状況を見ると、前年や3か月前に比べて減少傾向にある。原油高などによる不景気感で消費はやや落ち込んでいるようであり、企画を増やして消費を喚起するようにしても現状維持がやっとの状態である。
	タクシー運転手	来客数の動き	・総会シーズンであるが、夜の繁華街の人出が例年よりも少ない。
	通信会社(企画担当)	単価の動き	・以前にも増して、客が通話・通信品質よりも、通信料を重視した選択をするようになってきた。

		観光名所（役員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは後半の天候不順も加わり、来客数が伸びなかった。その後も特に国内客の動きが鈍く、全体の来客数は前年を下回る見込みとなっている。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・例年のこの時期と比べて、問い合わせ数、成約数共に激減している。
悪く なっている		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・生活必需品の値上がりりが、ムード的にとても足を引っ張っている。特にガソリン税を始めとした暫定税率の問題は悪い影響を及ぼしている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・最近の石油価格の上昇に端を発して、食品を始めとした様々な商品が値上がりしているなか、酒類においてもビールや焼酎の値上げが行われた。マスコミなどで頻りに報道されていることもあり、客の購買意欲が低下している。また、主要取引先である外食産業においても客の出費控えが顕著に現れてきている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月のガソリン値下げとその後の再値上げ、高齢者の医療制度の問題、食品等の値上げ等の動きにより、客の様子が慎重になっている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・天候不順で極端に寒くなったこと、ガソリンの再値上げなどが重なり、来客数、買上状況共に厳しさを増している。
		スーパー（店長）	それ以外	・金銭を目的としたような難しいクレームが増えている。これまでに、焼き鳥を食べたら調子が悪くなり、会社を休んだので、休業補償しろというクレームや、かばんを購入し、今まで使用していたかばんを捨てるように依頼した上で、その後、捨てたかばんを弁償しろというクレームがあった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ガソリンの値上げなどで節約ムードが非常に強まっており、客の買上点数が減っている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・カップめん、インスタントめん、パスタなどの加工食品においては、価格水準の低いプライベートブランド商品が大きく売上を伸ばしている一方で、果実などの主食以外の食品においては、節約志向のためか需要が大きく落ちてきている。
		コンビニ（オーナー）	単価の動き	・割引品等に対する客の反応が目立っているが、販売数自体は伸びていない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は前年比85%と大きな落ち込みを示している。他のホテルや飲食店への分散も考えられるが、全体的に利用が落ち込んでいる。特に昼の主婦層、夜の接待関係の利用控えが目立つ。
		一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・稼ぎ時となるゴールデンウィークの売上が前年比75%にとどまっている。5月全体の売上也前年比85%であった。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が非常に減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあり、例年タクシーの売上が落ち込む月であるが、今年は売上が前年を大きく下回っている。通常であれば、雨が降るとタクシーの利用客が増えるが、今日は雨の日も忙しくならない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・5月は祭日が多いが、祭日のタクシーは大変暇になってきている。ガソリンが値上がりしたため、自家用車を使わないようになり、タクシーに客が流れるかと期待したが、そういうことも全くなく、非常に厳しい状況が続いている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月連続して、来客数は前年実績を下回っている。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている			
変わらない	家具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・首都圏は低調であるが、地方が堅調になっている。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・道内の輸出入実績は原油価格の上昇等の影響で前年を上回っているが、一般貨物であるコンテナカーゴは前年を下回っている。特に建築関連の動きは相変わらず悪く、回復の見通しが立たない状況にある。	

		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は大手製造業が下支えているが、道内中小企業では低迷している。企業収益は原材料価格の上昇で圧迫されている。住宅着工戸数は持ち直しの兆しはみられるが、水準自体は低い。生活必需品の値上がりもあり、個人消費も弱い動きが続いている。
やや悪くなっている		食料品製造業（団体役員）	それ以外	・ガソリン税などの暫定税率の復活や再値上げ、食品を含む原材料価格の上昇は、国民生活のみならず、企業の収支悪化を招いている。当地の食品産業は中小企業が多く、コスト上昇分を価格転嫁できる状況になく、景況は悪い方向へ向かっている。また、水産品の輸入原料の高騰により、加工生産が減少しており、なかには採算悪化から製造を取り止める品目も出てきている。
		出版・印刷・関連産業（役員）	受注量や販売量の動き	・原材料、特に用紙、インキの値上げが強行されそうな状況のなか、他社との競争が厳しく、価格転嫁が進んでいない。チラシの仕事も洞爺湖サミットを控えてのパチンコ業界の自主規制、不動産の販売不振などで仕事が減少している。
		輸送業（営業担当）	それ以外	・顧客に対して引受料金の燃料部分の値上げ改定をお願いしているが、なかなか承認されない。一方で、輸送会社に対しては下払い料金を上げており、元請としては商売がきつくなっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先において、原油高騰によるコスト増の影響が大きく、設備投資や経費を計画よりも抑制しているとの話を聞く機会が増加している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・暫定税率取りやめの影響で、入札工事の発注が遅れている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ベース商品となる消耗品の販売量が減っている。
悪くなっている		食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比べて、原材料価格が更に高騰している。受注の動きは依然、活発だが、受注価格並びに販売価格は、原材料価格の上昇分を吸収できていない。特に原油や小麦に係る原材料関係は、植物油脂、乳製品を含め、どんどん値上がりしている状況にあり、利益幅がどんどん圧縮されている。
		司法書士	取引先の様子	・個人住宅の建築が少なく、それに伴う土地の売買もほとんどない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・就職戦線の本番を迎え各企業が採用試験を行っているが、最終面接をほぼ終え、内々定が決定している。内々定を得る学生とまだ得られない学生と二極化しているが、学生としては手ごたえ十分のようであり、キャリアサポートセンターがにぎわっている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・大型公共工事は減少したものの、民間企業の建築工事が底を打ちつつある。基幹産業の農業も海外物の高騰を受けて、希望的観測が生まれている。また、若年者による飲食店の開業が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の減少に伴い、4月の北海道の有効求人倍率は0.46倍と過去1年間で最も低い倍率となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人数は前年比で4.3%の増加となったが、前月比で7.7%の減少となった。一方、新規求職申込数は前年比で3.3%の増加となり、前月比でも31.0%の増加となった。月間有効求人倍率は0.44倍となり、前月からは0.06ポイント下回ったものの、前年からは0.01ポイント上回った。

やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・新聞社と共催で行った5月の転職フェアの来場者が増えた。フェアは年5回開催しており、前年の夏以降、来場者が減少傾向にあったが、5月はここ4回なかでも来場者が多かった。加えて、最近是新卒や第二新卒者の来場が目立っていたが、5月は新卒や第二新卒者の来場は目立たず、本来の求職者が急増している。また、フェアでの仕事探しの姿勢も積極的であり、いよいよ真剣に仕事を探し始めないと就職できない状況となっているようである。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・直接雇用に結びつく、紹介予定派遣の話は一時的に増えたが、派遣については依然落ち着いている状況である。また、雇用主、就業者共に、直接雇用への切替え時に断ることが多くみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は10か月連続して前年を下回っており、特に小売業、サービス業の新規求人の減少が目立っている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の有効求人倍率0.41倍で、5か月連続で前年を下回っており、新規求人数は前年から11%の減少となっている。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・流通系の企業ではコストを抑えるために、パート等の求人数を減らしている。また、清掃関係の派遣が減少している。各企業とも全体の経費の見直しが進んでいるようで、抑えられるところは極力経費を削減している。